

令和4年度事業報告書

通所介護事業所 桂浜
介護予防通所介護事業所 桂浜

I 令和4年度の基本方針の実施状況

- ① 通所介護事業所として、要支援及び要介護状態のご利用者様に対して、個人としての尊厳の保持、有する能力に応じ、ご利用者の身体機能の維持・向上やご家族の心身負担の軽減に努めることができた。
- ② ご利用者の在宅生活における現状を家族やケアマネージャー等と情報を共有し、課題等を踏まえ、個々に通所介護計画書の作成、必要なサービス提供を実施することができた。
- ③ 地域の居宅介護支援事業所に対して、当事業所に対する要望等を確認し、事業所で取り組むべき方向をきちんと捉えたうえで、ご利用者に対してより良いケア対応を行う環境を作ることができた。

II 目標及び事業実施計画の実績

(1) 令和4年度の目標における実績

年度当初より新型コロナウイルスの影響で、居宅介護支援事業所や関係機関への営業活動ができない状況であった。法人の目標である、「1日平均利用者数25人」に対して、1日平均利用者数が16.44人（前年度比-1.83人）。

- ・コロナ禍における、情報発信不足（対面での営業活動の自粛）
 - ・コロナ禍による、ご利用者やご家族の自己判断での利用の自粛
 - ・長期間にわたる入院や利用回数の多いご利用者の施設への入所
 - ・コロナ陽性者発生による縮小営業や閉鎖 など
- これらの事が要因となり、目標を大幅に下回った。

(2) 事業実施計画の実績

1) 中長期的な目標

- ① 地域に求められている通所介護事業所として機能を検討し、地域高齢者支援センターなどと情報共有を行い、行政の目指す「地域包括ケアシステム」の取り組みに沿った対応が行えた。
- ② 365日の営業や夕食の提供など、他事業所には少ないサービス提供を行うことで、通所介護支援事業所桂浜としての独自性を持ち、社会福祉法人としての役割と捉え、地域に貢献することができた。
- ③ 出来る限り医療ニーズにも対応し、要支援者から要介護者まで幅広く受け入れを行った。今年度は新型コロナウイルスのまん延する中で、営業縮小や停止を余儀なくされた。

2) 短期的な目標

- ① ご利用者やご家族様からのリハビリ訓練のニーズが高く、リハビリ訓練を充実させ、個別機能訓練加算Ⅰ口を加算していたが、理学療法士が1名退職したため、個別機能訓練加算Ⅰイの加算となった。
- ② コロナ禍の中、感染防止に努めながら可能な限り外部研修に参加する事ができた。CIJ 福祉会が研修プログラムの中で掲げる、①介護力の向上②介護サービスの向上のための研修に繋がるようにZOOM等を活用し外部研修へ参加した。
- ③ 365日の営業（土・日・祝・及び年末年始の対応）が近隣の居宅介護支援事業所に評価され、他のデイサービスから移ってこられる事例が見られた。

サービス内容やご利用者に有益となる具体的な情報を関係各所にアピールするという点においては、新型コロナウイルスの影響で積極的な営業活動が行えず、情報発信ができなかった。その結果、新件が少なかった。

利用者や居宅介護支援事業所よりの要望、要請に速やかに対応できるように相談員を3名体制とした。
- ④ ご利用者の通所介護での活動が、日常生活に活かされるよう、介護支援専門員の立案したケアプランに基づき、通所介護計画書の作成・計画実施・結果見直しを行い、計画に沿い援助を進めることができた。
- ⑤ 月1回のデイ会では、日々変化する細かいご利用者の状態を全職員が共有する事が難しく、朝の送迎前に毎日短時間での朝礼を実施することを徹底した。ベテラン職員の異動や新しい職員の着任に伴い、ご利用者の日々の状態の把握、そしてサービス低下の予防が課題となったが、毎日の朝礼を実施することによって、より具体的なご利用者の状態の把握ができるようになり、サービス向上へとつながった。
- ⑥ 事故については、0になるように努めたが転倒などの事故は起きてしまった。事故検討については、当日または2日～3日中には事故検討会を実施した。